



堀場製作所OB会

会報

通巻33号

発行日 平成25年1月11日

発行者 堀場製作所OB会

川越 幹

編集者 山本広太郎

◆堀場最高顧問米寿お祝い

- ・米寿お祝いの辞
- ・講話 堀場最高顧問

◆第17期年次総会を開催

- ・近況 堀場社長
- ・年次総会

◆定例幹事会

- ・第17期第1回定例幹事会
- ・東京支部第17期第1回定例幹事会

◆クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・グランドゴルフクラブ
- ・釣りクラブ
- ・ビデオ・カメラクラブ

◆堀場OBボランティア活動

- ・鴨川クリーンハイクに参加
- ・ボランティア活動に参加お願い

◆堀場OBキャリア活動

- ・NPO法人京都シニアベンチャークラブ
連合会活動状況
- ・平成24年度京モノレンジャー活動状況

◆OB会行事報告

- ・夏の懇親会（がんこ高瀬川二条苑）
- ・レジャー例会 … 嵐山で紅葉狩り

◆東京支部活動

- ・堀場社長との懇談会を開催

◆会員寄稿文

- ・京都の知っているつもり
「京の治水・三人の偉人がいた」
……………海野興一郎
- ・年をとってもいきいき元気に暮らしたい
……………梶並 強平

◆OB会だより

- ・堀場OB会ホームページ紹介
- ・新入会員紹介
- ・会員の訃報
- ・年間行事計画について
- ・OB会設立15周年記念誌発行
- ・会報、ホームページへの寄稿について
- ・OB会入会手続きについて

◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆編集後記



下賀茂神社 相生社

神皇産霊神（かむむすびのかみ）を祀り、縁結びで有名です。産霊（むすび）とは産み育てることで、宇宙万物を創造した造化三神の一柱です。ご神木の『連理の賢木（れんりのさかき）』は、二本の木が途中から一本に結ばれ、縁結びの象徴です。この木が枯れると糺の森のどこかに跡継ぎが出来るそうです。今は四代目で京都の七不思議です。

堀場最高顧問米寿お祝い

米寿お祝いの辞

堀場製作所最高顧問 いや堀場雅夫様 このたびは「米寿」の年に当たり、OB会員一同ここからお祝いを申し上げます。

顧みますと、学生時代からベンチャー事業を立ち上げられ、もう70年近くになり、また株式会社として来年創立60周年の式典を迎えられることをお聞きしています。



この間、私たちの人生の大半をお世話になりましたこと、これは何にも代えがたく感謝の念を禁じ得ません。

自由主義のもと、最高顧問が実現された本当

の意味での民間ソサイティーであり、またそのウエルフェアに浴し、おもしろおかしく活動させていただいたことは、私たちの最大の誇りでございます。

どうか米寿というステップを一つの通過点として、益々ご壮健にて、今後とも、ご指導、ご鞭撻頂きます様お願いいたします。

ささやかではございますが、OB会のマドン

ナの田中光子より、花束の贈呈をさせて頂きます。どうかお受け取り頂きます様お願い申し上げます。



堀場製作所OB会 代表幹事 川越 幹

講話 堀場最高顧問

ただ今は、米寿のお祝いをして頂き、私の人生にとって最高の幸福であります。来年は堀場



製作所創立60周年を迎えることは、皆様の努力の結晶として60年間支えて頂いた。これが80、90、100周年と続いてゆくようよろしくお願いする。

振り返ると、いろんなことがあった。自己努力不可能なニクソンショック、石油ショック、バブルの崩壊、リーマンショック等だ。

以前オルソンとアメリカで合弁会社を作ったが、オルソンがアメリカの大企業に買収され、ある日突然堀場のパートナーが変わってしまった。オルソンホリバは排気ガス専門にアメリカで作った会社だ。相手の新しい企業は、堀場の

全製品の販売権を要求してきたが、それは断った。M&Aで自社株を買っておけばよいというが、ホリバの株式は42%から43%で、あとの57~58%は、どちらに転ぶか分からない。当時、今ある株価の2から3倍の値となる。株主も少々堀場に世話になっていても、2倍、3倍ではこっそり売っておこうということになりかねず、過半数を取られる恐れがあった。そこで取引先や銀行に頼んで60%近くとし絶対大丈夫という株の構成にした。すると相手から株主工作をしたらしいので、それでは興味が無い。自分の持っている株を高く買えと言ってきた。それでオルソンホリバのアメリカ側の株を全額買いとった。そしてようやくホリバインストゥルメント社として、堀場100%の出資でアメリカ側の会社がスタート出来た。

そうすることで、堀場のアメリカ進出というのは、そんな生易しいことではなかった。

また近くは、バブルが崩壊して、我々の筆頭株主であった日立の経営が悪くなり、利が乗った株を手放せということになり、堀場は日立に株を持ってもらっていたが、これは増資割り当てで渡していた関係上全部額面で日立の簿価50円で1000円とか1500円の値で、20倍とか30倍になっている。日立が持っている300万株を市場に出すと言う。しかたがないので、ひと月50万株ずつを6か月で出してほしいと頼んだが、銀行からは持っている資産は早く整理しろと言われていて、数百万株を一挙に市場に出すという。これはストップ安、ストップ安ということになるので、また取引先や金融機関にお願いした。時代がバブル崩壊時で、皆さん経営状態も困っておられる時でもあったが、堀場の言うことなら全面的に応援するというので、その株を引き受けて頂いた。またそれだけでなく、我々のメイン筆頭株主の東海銀行が手を引くことになり、関係会社を含むと100万以上の株式を一挙に放出するというので、追い打ちをかけら、ま

たお願いをして、これも快く引き受けて頂いた。

こういう数々の危機を乗り越えて、バブル崩壊が我々の命取りにならなかった。もちろん我々の方は二次産業なので、ものを作ってそれを買って頂くわけだが、それが売れない、利益が出ないと苦しい時があったが、一方において、上場企業の株というものが大変大きな役割を果たし、株主に対するいろんな考え方を明確にしておかないと、日ごろ我々の企業の姿勢が、正しいか、いい加減な会社か、あるいは人に迷惑をかける会社かあるいは逆に社会に対して重要であるか等、皆で応援する会社かという心掛けが、大きな問題が起きたときに、本当にみんなが助けてくれるか大きな分かれ道だと思う。今まで堀場は真面目に仕事をしてきて、そして世の中の人々にも好感を持って報いられ、困っているなら助けてあげようという声があったことは、これは我々にとっては、最高のことであった。この堀場の信用をこれからも大切に育てて行きたいし、この信用作りを会社としての行動もさることながら一人ひとりのホリバリアンとして、社会に対して堀場に勤めている人は、本当にいい人だなと思われてきた集積が、難局に当たって皆さんに好意を持ってもらった賜物であり、皆さん方の大変なバックアップを得て成長してきた。これからもどんどんOBが増えていくが、皆さんの支えで、新しいOBの皆様も生きがい、働きがいというものを持って頂きたい。

私この頃、高齢になって、現役の時もさることながらOBの方々にも話を頼まれてゆくが、大学の先生だとか、お役人とか、これは大変格差があって、今までプロフェッサー、ドクターと言われてきて、定年になって私立大学の教授に行く方はあるが、実はこのごろ人口も減り、学生も減ってきているので、大学によっては定員まで学生が満たない。大学の先生と云えどもそ

う就職口があるわけではない。お役所もなかなか厳しい。今ままでなら省庁の関連のたくさん
の財団法人等があったが、もう増えないし、いわんや、天下りがけしからんとなっている。ついこの間までは、肩書で威張っていた人が、定年と同時にただの人になる。一番気の毒なのは、政治家で、参議院議員、衆議院議員で先生、先生とよばれていたのが、選挙に落ちると本当にただの人になる。

だから民主党の人は、解散して新しい選挙があるが、必死になって頑張るしかない。当選出来る人は良いが、そうでない人は、せめて正月を超えるまでは頑張ってもらいたいというのが正直なところでしょう。

さて、人生というものは、ただ一つの道を歩むということは無いと思う。私はそれを櫃まぶし人生と言っている。名古屋で櫃まぶしというものを知った。ご飯の上にきざみ鰻とだしがかかっている。それで一杯呑む、次にご飯を混ぜ鰻丼とする。次に刻み海苔と山葵をいれ、熱いお茶をかけて鰻茶漬けとする。これがまた旨い。材料は同じで、酒の当て、鰻丼、そしてお茶漬けになる。同じ材料なのに、懐石コースのフルコースを食べた気がする、

これが人生とはそういうものと違うのかと思う。同じ材料でも食べ方と味が全然違う。若い時代、学生から就職する人、大学に残る人は一杯飲んだ段階だ。次にご飯が食べたいこれが本業になる。しかし腹が膨れただけでは寂しい。熱い茶漬けも食べたい。

自分の人生において、私も学生の途中から堀場無線研究所を創っていろんな仕事をした。いろいろな経験後、株式会社として堀場製作所を設立しようとした。多くの方々に出資してもらい、工場も建て、優秀な人材も集めた。私が53歳になって、設立25周年となったとき、これで堀場製作所は次の若いひとに経営してもらおう方がよいであろうと思って、会長に就任して、そ

れから産業情報センター等をつくり、中小企業やベンチャーのために尽くした。これがお茶漬けとなった。今もこれを続けているが、私自体は櫃まぶし人生を送ってきた。どうか皆様も、一杯飲んだ段階か、過ぎたのか分からないが、これから皆さん方の持っている能力を、おなかを膨らしたので、もうやめとこうかと云わないで、山葵と海苔に熱いお茶を注いだら大変おいしいご馳走になる。ぜひ櫃まぶし人生を送ってほしい。それを大学の先生や代議士の人に話したら、ああ分かりました、これからやりますと、当初しよげていた人が、元気になって帰って行った。

皆さんも既にお茶漬けを食べていても、それにスズコを載せれば、もっと美味しいお茶漬けになると思う。

元気に生きるというのは、飯を食って空気を吸って、生物学的に生きていて、炭酸ガス発生しているのだけでは、何もしてないことになる。自動車に例えるとアイドリングしているのだ。定年後遊んでいる人は、単なる炭酸ガス発生器だ。ブレーキも変速機もついていてもガレージに置くだけでは、無意味。動くことが肝心で人間として何かやらないとだめだ。

少なくとも堀場のOBというのは、ひとりひとり素晴らしい仕事をやってきた。いまでも皆さん方は、この分野でならだれにも負けないという人ばかりと思っている。人間として価値のある人生にしないとだめだ。

世界中を見ると、アフリカのソマリアとかバングディシュ等は、どんなに努力しても一日一回の飯が当たらない、努力しても努力しても我々の生活の1/5にも達しない。病気しても医者にもかかれない。薬ももらえない。栄養失調か何かの原因で若くして死んでゆく。日本に生まれたというだけで、60何億人の中で、日本人の上から10%ことによったら5%のところに生まれた。日本全体の最悪の人でもトップの10%に

いる。いわんや皆さんの様に教養があり、立派な企業に働いた人は、上から1%か2%である。定年制があるが、これは、組織上の問題であって、人間社会においては、皆さんは必要とされている。一番簡単な必要性は、一方では、食べることが出来ない人がいる。病気になってもなんの手当もない人が、何十億もいる。それなら少しでもなんとか一日一食の人は二食、一日に二食の人は三食くらいの仕事がいっぱいある。皆さんはいろんな分野で能力を持っている。例えば、とってソマリアに行けとは言っていないが、やらねばならない分野がいっぱいある。それに対して、本当にやってくれるなら、自分の能力に応じて、ボランティアでもいいし、起業でもいい、やる気なら資本も出すという分野もいっぱいある。

私も80歳になるまで、いろいろやってきたが、これ以上だんだん年も寄ってくるし、まあこんなものかと思っていたが、80歳になったときに、考えがころっと変わった。やりたいことがいっぱいあるし、やはり神様、仏様が迎えに来てくれるまでは、動かないといけない。やりたいこと、知りたいことがいっぱいあるし、これを一つひとつ勉強すれば面白いことが多い。棺桶に入ったとき、ああ自分の人生は良かったなと思いたいし、いま一つであったなあと考えて死ぬのは嫌であるし、出来るだけいろんなこと

を受けてやっている。皆さんもぜひ一つでもいいし、能力を持っている人が三人集まってもいいし、世のため人のため、自分のため、この世に生をうけているということで活動することが、肉体的にも元気になるし、家族の人もお父ちゃんもおばあちゃんも頑張っているということが、ひいては、今停滞している日本に元気を与える。日本人一人ひとりの能力は、素晴らしい。今や堀場の日本人は約半数であるが、その基礎的能力は素晴らしい。しかしアピールするとか一歩先に踏み出すことが弱い。アングロサクソンは、一歩早く足を出す。

来年の総会は、新しいベンチャーが生まれたり、新しい活動を始めたりすされることを楽しみにしている。

私もいつどうなるか分からないが、平均年齢を超え、ロスタイムに入っているので一点入れば負けなので、入れられないようにしてゆきたいと思う。

計測展では、担当の者が、堀場のOBが来てくれて元気づけられたという。どうしてOBか分かるのかというと、一般のお客さんは展示品を一步離れて見るが、OBの人は、製品にぐっと近づいて見ていることで分かりますという。どうか今後とも現役のホリバリアンとも親しくして頂くことが、皆さんも非常に喜んでいるのでよろしく願います。(抄録)

第 17 期 年 次 総 会

近況報告 堀場社長

皆さんこんにちは、今週大阪で計測展を開催中で、工業会の会長として積極的に推進、以前の1.5倍と大きな成功となった。(OB会員も約20名参加)今の日本で国の力を削ぐ評論がある。じり貧状態というが、きっちりした対応をすれば大きな力を持っている。分析展も、科学機器協会と一緒に大きな展示会にしたい。会員

企業からそれぞれ優秀な人を出して、単に展示のみでなく、セミナーを開いて知識と情報を提供し、来場価値を創りだす。お互い競合関係である会社も協力してゆける経営者どうしの信頼関係も大切だ。

永年、横河さんと山武さんが会長であった電気計測器工業会の会長職が取れた。分析機器工

業会は顧問の時代に副会長だったが、その後会長職が取れ、分析機器工業会から電気計測機器工業会に梯子したのは、おそらく堀場が初めてだ。これは工業会全体の活性化への期待度だと思う。堀場自体この二大工業会において大きな指導力を持つことになる。将来的には、医療機器工業会においても堀場が会長職を取って行きたいと思う。



半導体の方は、セミで12年間役員をしていた。会長職こそなかったが、それに類する感謝状をもらった。堀場は、エステックのマスフローを中心に、コンポーネントのみの会社ではあったが、日本を代表する役員として、堀場が選ばれていた。

上記の様な公的活動は、日常業務からすると軽視しがちであるが、非常に重要で、最終顧客、きっちりとした会社は、それら情報を押さえていて、製品は少々高価でも購入してくれる。例えばフランスのサークレイというところに研究所を建てたところ、早速我々のフランスの社長代理が各海外の投資元やフランスの産業における座談会等に呼ばれて、キーマンになり、堀場の名前が前面に出てきている。

上期の決算で発表した内容、2011年売上利益率、純利益は残念ながらダウンで、ストップ安になった。堀場の存在は大きく、3,4月決算の他企業の3ヶ月前を走る堀場の成績が他の企業の指標になっている。フランスでオープニング時、イギリスの5つほど投資銀行を回ったが、堀場の

成績は関心が無く、半導体、自動車、環境等の市場を聞いてくる。前倒しの情報が聞きたいだけだった。堀場がストップ安にならないように投資してくれと冗談を言った様な次第だ。

今年は、2011年に比べて厳しい。特に1~3月は良かったが、4~6月から減速傾向で自動車、半導体は1~3月は結果的には良かったが。しかし第2コーターの半導体、医療は急速に減速。昨年の放射線モニターは神風的で、一巡後8割のシェアを取った。堀場のものは結構高くて、売れないかと思ったが、現状でもよく売れている。それは福島に営業拠点を置き、アフターサービスの結果が現地で大きく受け入れられている。

為替の影響は大変厳しい。大型MEXAは過去最高台数の生産だが、利益が上がらない。為替がドル120~130円のところから、現在80円と厳しい状況に追い込まれている。

5つのセグメント別では、自動車は回復傾向で、半導体は下降、補完関係は、理想であるが、落ち込みは大きい、過去の大きな利益も急減速し全体の数字を押し下げている。

通期では、2002年から為替のこともあり、売上1400億、利益165億であったものが、現実と同じ台数を出しても利益が上がらない。2012年通期の予算では、売上は少し落ち、利益は135億が110億に落ちる。わが社は、たった15億落ちるだけでストップ安といわれる凄い会社である。

自動車の売上の通期は2008年当時ピークだった。今回も台数ベースでは、ピークだが、為替の影響で100億以上の利益が飛んでいる。その中でも赤字を出さない体質を構築できているということは、半導体のシリコンサイクルへの対応力で頑張っていると言える。

大型MEXAを含めてMEXAは8700台、オーストリアのAVLを含めて分析計にも攻勢を受けているが、堀場は世界標準で圧倒的なものを訴えけるとともに、今回MEXA-ONEという新しいモデルで、一気呵成に相手を叩きのめそうという

考えである。

MEXA-ONEは、単にエミッションのみでなく、統合計測プラットフォームで全てに対応できるプラットフォームである。またシエンク社を買収しトータルソリューションを提供できる基幹製品であると発表している。

地域別では、インドで自動車10億円以上の一括受注も得た。新興国ではスタンダード化のパッケージの受注を取った。厳しい価格でもその国のデファクトスタンダードを取る作戦を展開している。

医用は、競合が非常に強い、フランスと日本との協調、アメリカ市場の展開は遅れている。グローバルには試薬が売上の半分だ。液体ゆえ消費地に工場を持っていないといけない。中国は昨年2月、阿蘇工場もことしの8月、ブラジルも現在拡大中。将来的には、アメリカで対応予定。インドネシアに医用関係を中心に駐在所を10月にオープン、7名のインドネシア人が対応している。一番大きい病院の一つに血液分析計を納入しており、非常に尊敬されている。

半導体は、シリコンサイクルの谷をもちに受けているが、赤字に転落させないことが重要。阿蘇工場にはマスフローだけでなく、医療機器、薬液工場へシフトした。シリコン半導体、太陽電池、LED等で、特にシリコン半導体が非常に大きく落ち込んでいる。一般情報では、太陽電池とLEDが凄く大きなビジネスと報道されている。しかし現実には、ドイツ等で太陽電池のメーカーは倒産等うまく行っていない。中国の太陽電池メーカーも大変厳しい。ビジネスとしてみると世界の流れに逆行するような政策に見える。現在42円/KWで買い上げているが、原子力は7円くらいである。ドイツはほとんど破たんしている。スペインでも財政的な問題を含めてほとんど破産状態。日本だけが不思議な方向にシフトしている。大手企業その他が非常に厳しい現実で、今の経産省も太陽電池を一生懸命やっているが、当然電気代は税金でしかカバーできない。かつ大きな問題は、太陽電池発電に

投資しているのは、資金力のある会社や資金力のある団体だけ儲かるようシステムとなっている。それを今の政権が後押ししている。このことは我々として憤りを感じる。省エネの投資は必要だが、これが基幹の発電には絶対でないことが分かっているのに、これに口をつぐんでいる。電力コストが上がれば日本から工場が去っていく。今回阿蘇工場を拡張したが、日本で工場の投資は、経営者としては失格であると言われる。これは正解で、現に新規工場は一切投資されていない。そういうことを述べない、書かないメディア、むしろもっと加速させる間違った政策が取られている。最近大学で講演等をする人が多いが、現在非常に日本自体の不安定な状態を、きっちりと発言してゆかないとこの国は大問題であると思う。

科学はなかなか売上が伸びない。何とかしないとけないということで、かなり投資した。やっと新製品が出はじめた。来年からいくつかヒット製品を期待している。

メインは、フランスのジョバンイボンの製品であるが、苦しいのは、以前景気が良い時は、公的な資金が入っていて、大学、研究所でジョバンイボンのハイエンドな製品売れたが、今回はさすがにどこの国も苦しく、予算が回らないことが現状だ。

中国では、計測展に出した新製品に期待したいと思っている。またツイン等小型のハンディタイプのをカラフルにし、他のイオンも計れるようなものもラインアップして、ついでに買ってもらえるような製品を検討中だ。

環境は140億、ただ成績を上げているのは、放射線モニターの成果。これからいよいよ環境の部隊が勝負といえる。ただ原発が停止中で、火力発電向けがピークとしているが、いつまで安定的に対応できるのか。分析計だけを新製品として持ち込んでも心配だ。しかし火力発電所が止まることが無いように、サポートはしっかりと行かないといけない。

ポータブルのガス分析計は、デザインが表彰

されて、見た感じも重要である。最後10%高く売ることが利益に効いてくる。使い勝手性能はもちろんだが、デザインもきっちりとしてゆくことは大切である。

熊本については、今回4期目である。ただ工場を大きくすると景気が悪くなるというジンクス道理にはなっている。今はがらがらで、医薬をベースに、半導体をこちらに集約した。いかに我々が医薬に対して期待しているかがスペースを見てもらえる。熊本、地元の村も含めて非常に協力的で、対応が早く、この阿蘇工場が国内で最も大きい工場となった。上海のテクニルセンターは、堀場のエンジンダイナモを含めて駆動系を含めたトータルの製品が試験できるので、中国市場もきっちり押さえない。中国でデモがあった週にオープニングをしたとき日本の旗をあげていた。現地の市長、共産党の書記も来ていただき、セレモニーの後、夜のパーティーにも来ていただいた。日本の旗を揚げられるくらい我々の信念を示せた。

10月に堀場ヨーロッパリサーチセンター、大きなスケールの研究、生産拠点を作った。エコールポリテック工科大学の横に誘致を受けてオープニングした。トップの人たちや日本の大使等キーの人たちが参列してくれるレベルになってきた。

東日本大震災の時、放射線モニター130台近くを寄付し、血液検査装置も無償で貸し出しサポートさせていただいた。単に資金で提供することより、実際必要とされるものを無償で提供した。

モニターは、在庫が有ると思っていたが、大急ぎで増産した。ピーク時には月8000台を社内で一挙に増産できたのは、単に協力会社さんに頼むということではなく、エステックのマスフローを含めて、量産設計が出来た結果が出た。年間100台を作っていた製品が、8000台も増産しても、品質問題を起こさなかったのは当社と

して奇跡的なことだ。

働き甲斐のある会社として、6年連続ランクインしている。比較的メーカーのランクインは珍しく、ほとんど外資系とか、横文字の会社系でものを売っている会社がよく入っている。本当にピュアーな生産・開発をして地道に活動している会社の中ではトップで、これは今後ともキープして行くことを誇りに思っている。

残念ながら今回のロンドンには行けなかったが、林勇氣さんが北京で8位に入った。ライフルにも中村結花さんがいる。個人競技で強い選手については会社全体として、スポーツ好きの会社として対応して行きたい。実際京都パープルサンガで変わっていないのは、後援会長の私とオーナーの稲盛さんだけとなっている。サンガが北九州みたいな弱いところに負けて恰好がつかないが、一つは地元の若い選手で18歳から9~20歳前半の選手がメインとなっている。以前はカズとかラモスとか有名人を入れていて、チームワークが問題だったようだ。今は地道に人材を育てるチームになっている。サンガはまるで堀場を見ているように強くなっている。スタジアムを創るということで、城陽とか亀岡、京都の南の競馬場等の候補が上がっている。チャレンジ中でどうなるかお楽しみだ。

中長期計画がスタートしたところで。2010年、2012年、2014年ターゲット自動車、医用、半導体、科学とどういう製品がどういう伸びをするかが見て頂ける。

利益の断面では、半導体、医用、もともと自動車は非常に厳しいのは、シエンク社の買収で赤字になったが、単に排ガスだけの企業では対応不可の自動車がとんとんになってきた。結果的に堀場が対応できるためには最低5年がかかった。中国の排日的な中でも堀場がトータルな動きができるのは、堀場を買ってもらえることになったからだ。

最近大手の電機メーカーが悲惨な結果になっ

ているのは、自社の販売網をグローバルに持っていなかったのからだ。どこかの会社の昔と似ていないか。

あらゆる風を推進力に変えて航海を続けたい。追い風の時は、どの船も一緒のスピードであるが、逆風のときはむしろ風よりも船が早く動かせることもある。逆風は必ずしも悪くない。五つのセグメントは、すなわち五つの帆である。これをうまく利用して対応していくことが堀場のビジネスのあり様である。

来年の1月26日は、創立60周年の記念式典を迎える。ホリバリアン5400人中、日本人が2400人、外国人が3000人、うち特にヨーロッパで1600人と大きな比率になっている。今や良い製品のみで対応する時代は終わっている。次はどうビジネスモデルを開発して行ける企業か、競合メーカーと対応してゆかねばならない。例えば、ある製品はバーターで、ある製品はお互いに戦う。全日本軍として強さの維持を考えなければならない。（抄録）

年次総会

平成24年11月2日（金）午後1時から堀場製作所OB会第17期年次総会が本社大会議室にて開催されました。年次総会は通常、会社の創業期記念日まわり10月の開催が原則でしたが、今年

た。またグローバルな視点から現在の日本の置かれた状況についても貴重なご意見を伺いました。

第2部は、年次総会で、第16期事業報告、会計報告、監査報告があり、計画通りの遂行で、出席の全会員から承認を受けました。尚、昨年度のOB会設立15周年記念式典でお約束した「堀場製作所OB会設立15周年記念誌」は今期完成し全員に配布しました。



堀場製作所OB会
第17期年次総会

- 第1部「会社近況報告」
（株）堀場製作所代表取締役社長 堀場 厚殿
- 第2部 年次総会
- 第3部「講話」
（株）堀場製作所最高顧問 堀場 雅夫殿
- 第4部 懇親会

は都合により、11月の開催となりました。参加者は49人でした。

今年は、堀場雅夫最高顧問が「米寿」の年に当たられる特別の総会で、OB会からもお祝いをさせて頂く記念すべき総会になりました。

第一部は、恒例の「会社近況報告」を堀場厚社長から、いつもの様にクリアな説明を頂き、現状の経営状況をよく理解することが出来まし



第17期の事業報告と予算案に関しては、「社会貢献及び会社への協力」をスローガンとして、会員それぞれのキャリアを活かして、会社との連繫を強めつつ、一層強力に活動してゆく

◆古希お祝い金贈呈者（8名 敬称略）

松岡 哲司 一木 武俊 谷口 義晴 下川 和子 渡辺 秀記 泉 昭太郎
近田 伯久 大道寺 英弘

ことになりました。予算案に関しては、前期の15周年記念式典のため一過性ではありますが、繰越金を大幅に取り崩しましたので、今期



は、会社も大変厳しい状況でもあり、一層コストパフォーマンスの高い活動に絞って進めてゆくこととし、少しでも次期繰越金を積み増すことを心掛けてゆくことになりました。

幹事体制については、一層若返りを促進するため、2名の新幹事を任命し、1名が退任となり、計11名体制で活動してゆきます。またOB会側の会計監査も交代しました。

新規入会者(9/20時点)は2名で全員から歓迎を受け、今後の活躍が望まれました。

古稀(9/20時点)を迎えられた方々は、8名で盛大にお祝いの拍手を受けられました。

第3部は、堀場最高顧問の「米寿」を出席OB会員一同でお祝いをしました。まず代表幹事より米寿お祝いの辞を申し上げ、OB女子会員より花



束の贈呈を行いました。最高顧問には大変喜んで頂き、総会が沸きあがりました。引き続き堀場社長とともにOB会員をバックに記念写真を撮りました。



恒例の講話は、前掲の「櫃まぶし人生」論を主とした講話を拝聴致しました。

第4部の懇親会は、食堂にて、例年どおり会

社の幹部の方々を迎えて、賑々しい雰囲気の中で、懇親の花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

■新任幹事の抱負

—中村十規人さん—

今回、OB会重鎮のメンバーさんよりお誘いがあり幹事を引き受けさせて頂くことになりました1970年入社の中村十規人です。

私がOB会に加入したのは5年前ですが、会社勤務等もあり、OB会の諸活動・諸行事にはほとんど参加できていませんでした。しかし、私もOB会の設立に関与した一人として、OB会の活動は気になっていましたし、りっぱで頼もしい諸活動をされているのを横目で見ながらいつも感心していました。

現在、私は地域の自治会活動や自主防災の活動、シニアネットへの参加等しており、それなりに忙しくしていますが、今回、OB会幹事の一端に加わらせていただき、会社の応援団として、また、女性をはじめより幅広い方々がOB会の諸活動・諸行事に参加していただけるよう微

力ではありますが努力したいと思っています。ご支援とご協力のほど、よろしく願いいたします。

—中村正博さん—

このたび、堀場OB会の幹事役を努めさせていただくことになりました、中村正博です。定年後、本会のクラブ活動の一つでもある山遊会に入会させていただきました。皆さん大変元気なので驚きました、出来る限り参加していきます。

OB会の目的の一つでもあります、会員相互の交流と親睦を図りつつ、まだ会員に入っていない方への参加の呼びかけを積極的に行って行きたいと思えます。

会員皆様のご支援・ご協力を頂きながら進めて行きたいと存じます。どうか宜しく願い申し上げます。

定例幹事会

第17期第1回定例幹事会

平成24年11月8日（金）14：00～16：00、OB会室にて、石黒英憲、川越 幹、小谷昌男、酒井俊英、谷口義晴、田中光子、中村十規人、中村正博、船越 健、森山晶成、山本広太郎（五十音順）以上11名の出席を得て、第17期第1回定例幹事会が開催されました。

今回は、長年お世話になった梶並強平氏が退任され、年次総会にて承認を受けられた中村十規人、中村正博の各氏が新たに就任されました。その結果1名増員と若返り体制でスタートしました。また、会計監査は、水野和茂氏から湯浅一郎氏になりました。

◆主な議事内容

①第17期年次総会の評価と今後の活動等について

・参加人数が少なかった。

49人/169人（29%）

来年はもう少し参加してもらおう。皆様の積極的な呼びかけをお願いします。

②第17期諸活動年間スケジュールと実行について

・年間行事計画表を作成し、計画的に推進してゆくことになりました。

③第17期予算管理について

・前期は、OB会設立15周年記念式典のため大幅支出増となりましたが、今期は、これ以上繰越金を減らさない様、予算管理をしてゆきます。

④新幹事・活動体制、役割分担について

・第17期の諸体制

- ・代表幹事 川越 幹
- ・副代表幹事 小谷昌男、山本広太郎
- ・会計幹事 田中光子
- ・事務局 山本広太郎

各部会活動担当

- ・ボランティア部会 石黒英憲
- ・キャリア部会 KSVU 中村正博
- ・京モノづくり 森山晶成（協力者 村瀬潤）
- ・レジャー例会・懇親会 中村正博
- ・堀場製作所との連絡会
小谷昌男、山本広太郎
- ・年次総会 中村十規人
- ・会報・ホームページ 山本広太郎、川越 幹

⑤キャリア部会

・生き方探究館授業での市内小学生の理科工作授業は、市教育委員会の年間スケジュールに合わせ、堀場OB会として社会貢献の一環としてサポートを推進してゆきます。

また、さらに社会貢献の幅を広げてゆくべ

く検討していますが、皆様のキャリアを活かした、具体的な活動の提案を歓迎します。

⑥ボランティア部会

- ・鴨川を美しくする会の活動への参加は、定着していますが、続行してゆきます。
- ・その他OB会に相応しいボランティア先を模索してゆきます。

⑦東京支部計画

- ・京都と連携を取りながら、年間スケジュールにより活動してゆきます。

⑧秋のレジャー例会の実施

- ・担当の中村正博氏により、具体的な計画と通知をすることになりました。

⑨会報33号発行（本号）

- ・内容は年次総会の状況を主とします。原稿を各会員にも依頼しますので、皆様の寄稿を大いに歓迎します。（図書券1000円進呈）

⑩その他 退職者のOB会加入状況について検討しました。

- ・退職者の加入率は約25%とまだ低く、年代的親しい人を各自が勧誘してゆくことになりました。退職者それぞれ事情はありますが、少なくとも退職者に入会への案内をもれなく実行できるようにしてゆきます。

東京支部 第17期第1回定例会

東京支部は10月19日（金）13：00～14：20 TSOエクセレントルームで17期第1回定例会を開催しました。谷口幹事より今年5月に亡くなられた大沢祥三様への弔問は、辻川氏、新井氏も参加希望されたが日程が合わず、谷口幹事、玉置様で日程を合わせ、先方の都合も聞いた上で近日中に訪問するとした。次に先日開催された幹事会について報告され、17期も現体制で継続とし、新体制への移行は十分な引継ぎ行い、来期よりとする等の報告があった。

次に今年度総会（11月2日）の参加者希望を

募ったが東京支部会員に参加希望者は無く、谷口幹事のみ参加となった。次に堀場製作所60周年記念プロジェクトHORIBA HOUSEについて説明があり、みんなの在職時の苦労話、エピソード等の募集のお願いがされた。また、次回（12月14日）定例会に佐藤常務より最近の堀場グループの概況について説明して頂くこととなったとの報告があった。

最後に海野副幹事より、来年の一泊旅行について、宿泊地はホテル鬼怒川御苑とし、翌日の観光は日光東照宮、車は三台（横井車、谷口

車、新井車)、ゴルフは鬼怒川カントリークラブ、ゴルフにはOB会員以外のOBの方、予定者等の参加を数名(宿泊も参加可能)に声を掛けている旨報告がされた。なお前日の観光は日光江戸村、東武ワールドスクウェアを検討したが、入場料が結構高いためOB会としての行動ではなく各自での参加とし了承され、具体案を次回定

例会に提案することとした。

会議後、定例の「そば処大新」で懇親を深め、喫茶後散会となった。

◆出席者(敬称略)

寺西英三、辻川毅、土屋富夫、大道寺英弘、玉置健三、谷口義晴、新井章生、海野興一郎

クラブ活動報告

山遊会

— 第24回 創部5周年記念特別例会 —

- ・実施日：平成24年9月23日(土)～24日
雨後曇・晴
- ・行先：美ヶ原 王ヶ頭(2,034m)
- ・参加者：池田 俊明、萩原 孝一、下川 和子、
下川 博司、丸山 博、倉原 政治
橋口 純男、宇野久仁男

創部5周年の記念として、山遊会初の1泊2日の山行を計画。「深田久弥の日本百名山」の1つでありながら標高2,000mまで車で行ける美ヶ原を選択。23日午前8時30分京阪藤森駅に集合し、高速バス名神深草バスストップへ。昨夜からの雨が上がり不安が募る。8時56分ダイヤ通りバスに乗り込み松本へ向かう。途中多賀SAと阿智PAで休憩があるものの昼食は車中ですませる。13時35分少し早めに松本バスターミナルに到着した。14時30分ホテルの送迎車に乗り換え、ビーナスラインを経て1時間ほどで美ヶ原高原ホテルに着いた。すでに雨は上がっており途中少し青空も垣間見えたが、山上はガスがかかり周囲の展望はない。部屋に荷物を置き16時頃から15分ほどのところにある牛伏山(1,990m)を散策。尾崎喜八の肖像と「登りついて不意にひらけた眼前の

風景にしばらくは世界の天井が抜けたかと思う。やがて・・・」の詩のレリーフをカメラに納める。野外彫刻がある美ヶ原美術館まで足を延ばしたかったが、ガスが濃くなってきたため早々にホテルに戻り温泉で疲れを癒す。18時夕食、ジンギスカン鍋をメインに豪華な食事がテーブル一杯に並び大満足。19時30分からスライド映写会があり、ご主人の絶妙のトークで美ヶ原の魅力と山のエピソードに聞き入り、瞬く間に1時間がすぎる。その後一杯やりながら談笑の予定であったがあえなくもダウン。



翌24日は快晴、早朝5時に起き寒さ対策をして、ホテルから5分の美しい塔まで出かけご来光を拝する。その右方向には蓼科山と霧ヶ峰、さ

らに右奥に富士山を望む。美ヶ原山頂は本州第3位の面積を有する牧場で、現在30頭余りの牛を放牧しているとのこと、視界が開け清々しい。ホテルに戻り6時15分ホテルのご主人の運転で王ヶ鼻に向かう。板状節理の岩壁がせり出したところで、360°の展望があり、国内で百名山が一番多く望める場所とか。条件がよければ鳥海山まで見るとも。眼下には松本平が一望できる。ホテルに帰るとすぐ7時30分から朝食で、山小屋には珍しい洋食も満足のゆく内容であった。午前9時にホテルを発ち王ヶ頭まで車で通った道を歩く。9時50分三角点に到着、恒例の記念撮影を済ませる。10時来た道と平行したアルプ

ス展望コースを辿り百曲り園地に10時45分につき小休止。ここから百曲りを経ていこいの広場（1,420m）まで下山。途中11時30分県民の森キャンプ場で一息入れ、12時45分いこいの広場にあるセンターハウスに着いた。あいにく店は閉まっており、外で弁当を食べ待つこと暫し13時15分ホテルの車に拾ってもらい、14時に松本バスセンターまで戻ってきた。バスセンター地階でお土産を買い込み、15時発大阪行き高速バスで深草バスストップに19時30分頃に到着。順調な走行で20分ほど早く帰ってきた。23日夜の星空観察は不発に終わったが、24日は晴天に恵まれ充実した山行となった。

— 第25回 例会 —

- ・実施日：平成24年10月20日（土）快晴
- ・行先：飯道山（664.2m）
- ・参加者：池田 俊明、萩原 孝一、下川 和子、
下川 博司、丸山 博、倉原 政治
橋口 純男、高橋義治

午前8時京都駅びわこ線ホームに集合。8時07分発快速米原行に乗り、草津駅と貴生川駅で乗り換え、信楽高原鉄道紫香楽宮跡駅に9時29分到着。快晴無風、登山日和のなか9時40分出発。途中史跡紫香楽宮跡（甲賀寺跡）に立ち寄り、新名神高速道を潜り10時35分宮前登山口で小休止。20分ほど登ったところから地道となり、飯道神社まで7丁のつづら折れの急坂を行く。11時30分飯道神社着、紫香楽宮跡（宮殿跡）を眼下に望む。二の峰一帯は修験道の一大聖地であった飯道寺の遺構があり、石の階段を上ったところから右方向に、かつての坊院の石垣がまるで城郭のような壮大さで山中に残っている。戻って昭和51年に解体修理された極彩色の飯道神社本殿に詣で、正午の時報を遠くに聞きながら山頂を目指し12時22分二到着した。早速恒例の記念撮影をして昼食。山頂からは左手正面に三上山、その後ろに

遠く比良の山並み。木々を挟んで右手には御在所岳と鎌ヶ岳を遠望する。絶好の秋日和とあって登山者が絶えない。13時山頂を後にして杖ノ権現休憩所への急坂を慎重に10分ほど降る。ここからは三大寺林道、道德寺林道を歩き三大寺登山口を経て14時15分飯道寺に土着いた。小休止の後貴生川駅へ向かう途中、15時丁度ピアレストラン「寿賀蔵」に吸い寄せられ地ビールで喉を潤す。



よく冷やされた陶器のカップに、ピッチャーに入れられた2種類の地ビールを好みに応じて注ぐ。隣の売店でお土産の酒を仕入れ、貴生川駅15時53分発で帰路についた。

－ 第26回 例会 －

- ・実施日：平成24年12月7日（金）晴
- ・行 先：有馬三山 落葉山(533m)・灰方山
ゆぶねだにやま
(619m)・湯槽谷山 (801m)
- ・参加者：萩原 孝一、下川 和子、
下川 博司、丸山 博、
倉原 政治、高橋 義治、
中村 正博 宇野久仁男

今年6回目の例会山行も天候に恵まれ、事故もなく楽しい納山会となった。午前7時20分阪急河原町駅ホームに集合。7時29分発快速急行に乗り、十三駅で宝塚行通勤急行に乗り換え終点で下車。阪急バス60系統山口営業所行9時10分発に乗り、有馬駅に9時40分到着、とりあえず妙見宮登り口へ向かう。準備体操で身体をほぐし10時前出発。参道に安置された西国三十三霊場の石仏を数えながら、つづれ折の石段を登り10時18分妙見宮本堂に着いた。10時27分本堂裏にある落葉山三角点を確認して灰方山へ。痩せ尾根を辿り階段状の急坂を登る。北側斜面には霜柱が残り、いてついた道はストックが刺さらない。11時丁度灰方山山頂に立つ。日差しが暖かく風も無い、まずは記念写真を1枚。一息入れて出発。今秋の紅葉は当



初1週間遅れと予報されていたが、11月の冷え込みから逆に早まり、落葉を踏みしめての山行となった。12時少し前湯槽谷山に到着、2枚目の記念撮影の後昼食とする。12時30分下山をはじめ、湯槽谷峠から湯槽谷を降る。「難路」の標識通り何度かロープを伝って急坂を下り、荒れた沢筋に行く。いくつかの砂防堰堤を越えて13時15分林道終点にでた。林道を六甲有馬ロープウエーの有馬温泉駅に下り13時45分に着いた。時間の余裕もあり鼓ヶ滝を見物して、お目当ての有馬温泉「金の湯」へ。狙い通り金曜日とあって混雑もなく、ゆっくり温泉につかり心

身を癒す。阪急バス15時22分発宝塚駅行に乗り、宝塚駅で阪急電車に乗り換え、往路を逆に18時前帰京した。

グランドゴルフクラブ

11月15日、草津市矢橋帰帆島の公式グランドゴルフ場にて、秋日和とは逆に、秋雨に見舞われ、それも一時豪雨に晒されながらも、大変賑やかで、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。今回全く初めてプレーする丸山 博、森山晶成の各氏が参加されたので、参加者も過去最高の11名となりました。

グランドゴルフは何時でも、何処でも、ロー

コストで大変気楽に出来る高齢者にとっても最適のスポーツで、OB会内でのコミュニケーションを図る上でも、この上も無い行事といえます。はじめての方でも手ぶらで参加して頂けますし、道具類もすべて、クラブで揃えていますので、気楽に参加出来ます。

次回より、リーダー役として森山晶成さんに、バトンタッチをする事になっています。さ

らに新しい企画で開催される事を期待しています。

尚、次回は来年春を予定しています。ご案内をまわしますので、多数のご参加をお願いします。

◆参加者

川越さん、小谷（昌）さん、
梶並さん、萩原さん、西尾さん、
永瀬さん、池田さん、丸山さん、
森山さん、宮本さん、山本さん



釣りクラブ

残暑の8月24日にイカの半夜釣りを、日本海は若狭湾舞鶴沖の冠島周辺で行った。今回世話になる船は、幸清丸で、中村さんが先代の船長からの付き合いのある西舞鶴を港とする船である。いつも利用している瑞祥は、先約があり予約出来なかった。参加者は、下川、丸山、池田、中村（正）の各氏と私のOB会員の5名と堀場釣りクラブの調子氏の6名で、船をチャーターする事が出来た。午前11時半に京都縦貫道の手前のコンビニに集合し、3台の車に分乗して、まずは餌を購入するために綾部の釣具店「高橋」を目指した。京都縦貫道の沓掛より瑞穂を高速で走り、27号線を北上し綾部の「高橋」で特上オキアミレンガ 1個（¥1,100）を各自が購入し、西舞鶴のミツマルで食糧等を購入し、14時ごろに港に到着した。天気予報では、晴れ、波0.5mであったが、途中の山間部で小雨が降ったが、海に近づくに従い晴天となり、気温も上昇した。

港では、すでに船長夫妻が、待ち受けており、あわただしく釣り座の抽選を行い14時15分ごろ出港した。釣り座は、船尾に下川、調子の各氏が取り、真中に池田、丸山の各氏が座り、船首に中村氏と私が取

まった。午後3時ごろ冠島のかなり手前の漁礁に到着した。水深約67mとの船長の指示で全員胴付仕掛けの重り60号で、餌はオキアミ、撒き餌もオキアミで釣り始めた。潮の流れは遅く、しかも餌取りが多く、最初の目的の鰹が連れてこない。3箇所を釣り場を北に移動したが、鰹が単発にしか釣れなかった。

餌取り対策として、餌にするめイカの切り身を付けたが、すぐにカワハギに取られ効果なし。6時ごろにエサ取りがいなくなると少し味も連れ出した。丸山さんが、最初のポイントでアマダイの30cmを釣り上げ、その後調子さんもアマダイの25cmを釣った。



真鯛は、丸山さんと中村さんが30cmを各1匹、下川さん、調子さんと中村さんが25cmを各1匹釣り上げた。日が落ちると最初に中村さんがイカを釣り上げ、イカ釣りに変更した。私は、昼間あまり釣れないので、小さな鰹を餌にして底の大物を狙ったが釣れず、別の竿でヒットした鯛を取り込み中に道糸に絡めて逃げられた。逃げた魚は大きい。イカ釣りも個人により取りこみ数に差があり、2匹～35匹と差が出た。又、大きさも胴長25cmから7cm位の差があった。今回はすべて、真イカ（剣先イカ）であった。平均取りこみ数は、鰹5匹、イカ10匹で数が少なく、残念であった。

今期初めての釣りクラブ行事として、11月5日に若狭湾冠島近辺の漁礁での、船釣りを行った。

早朝6時5分に自宅を出発し、下川さん宅に6時15分、宮崎さん宅に6時45分ごろに行き、7時過ぎに京都縦貫道沓掛ICに入り、丹波ICより国道27号線を北上しているころの和知の手前の辺で雨がポツリポツリと降り出した。天気予報によると、京都北部の舞鶴のあたりでは、雨は夕方の18時以降に降るとのことで あったので少しがっかりしつつ、いつもの高橋釣り具店で餌（オキアミ、アミエビ）を購入し、朝食を取るべく、舞鶴の吉野家に寄ったが、営業しておらず、別途、コンビニにより車中で朝食を取った。その頃、雨が本格的に降り始め、いよいよ、雨の中の釣りを覚悟した。今回の船釣りに世話になる船は、武内丸で、船は、トイレ、キャビン（船室）がなく、小さい船であるが、船長の武内さんは、腕の良い生え抜きの船頭で、細かいことをうるさく言わないおおらかな気持ちの良い老人で、過去に、大きな鯛や、ヒラマサを釣らしてくれた実績のある船頭である。チャーター料金も4名から3名で氷付きで¥40,000で、他の船の3から5人で¥50,000（氷

私は、鰹5匹（30cmから15cm）イカ（胴長25cmから7cm）ウマズラハギ 1匹（26cm）であった。午後10時半に納竿し、11時40分ごろ帰港した。帰りは、12時ごろ出発し高速「西舞鶴」から「和知」及び「瑞穂」から「沓掛」を経て、翌日の午前2時に帰宅した。今回の釣りは、天候に恵まれ、穏やかな波で、船酔する人もなく、良かったが、あまり数が釣れなかった。私の反省点、胴付仕掛け（5本針）で餌をイカとオキアミの両方を1つの針に付けたため、時間がかかり手返しが遅れたこと。イカ釣りでは、仕掛けの糸を操作しすぎて、糸を絡ましたこと、スツテを持つべきであった。

なし）と比べて安価で、小人数の場合に利用している。今回の釣りの出港時間は、9時半で、9時22分に西舞鶴の伊佐津川左岸の埠頭に着いた。船長はすでに待っていており、早速挨拶し、釣り場を決めるため、ジャンケンをして、その結果、左のトモは宮崎さん、右のトモは私、右の舳先は下川さんと決まって、道具等を運び込み、9時35分ごろ、雨が降る中、出港した。舞鶴湾を出ると波は少し高く予報とおりの1m程度でそれほど、高くはなく釣りを楽しめる条件内であった。そして、船長が私以外の2人が船に弱いのを知っていたためか、あまり波の高くない港に近い漁礁に船を架けてくれて釣りが始まった。全員仕掛けは天秤ズボで、仕掛け長さ9から8m、餌は、オキアミ、撒き餌は、オキアミ・アミエビ混合であった。底までの水深は、63mで潮の流れは、あまりなく、釣りとしてはあまり良くない状況であった。第1投目で宮崎さんが、20cmのカイワリ（ヒラアジ）を釣り上げ、私も2投目でカイワリを取りこんだ。下川さんは、少し後で60cm前後のサゴシ（サワラの小型）を釣り上げた。

宮崎さんは、真鯛の30cm弱を3匹たてつづきに釣りあげ、私も鰹とエソを各2匹釣りあげ、下川

さんが、ウマズラハギの30cm強を3匹釣りあげた。餌取りが多いためにかすぐに餌を取られたために、場所を移動して釣るになかなか釣れなかったが、下川さんが47cm程度の綺麗な真鯛を釣り上げた。また餌取りが多くなったために、水深67mの少し潮の流れている漁礁に移動した。私の第1投目で、当たりがあり綺麗な34cmの真鯛が釣れてほっとした。

その後、私の竿に大きな当たりがあり、リールを自動巻き上げにするも、糸が巻き上がってこない。大物かと期待しつつ、手繰り寄せると、50cm程度のツバス（ハマチの小型）が4本の針の全てに掛かり上がってきた。下川さんもツバスを1匹釣り上げ、宮崎さんは、ツバスを釣り逃がした。その後、船を移動して下川さんが37cmの真鯛を釣り上げ日没後暗くなると釣れなくなったので6時に納竿し帰港した。

釣果、下川さん 真鯛ー47cm、37cm 2匹、

ツバスー50cm程度 1匹、サゴシー60cm程度 1匹、ウマズラハギー30cm強 30匹

宮崎さん 真鯛ー30cm弱 3匹、鯨ー33cmから20cm 3匹、カイワリー20cm 20匹、

西田 真鯛ー33cm 1匹、ツバスー50cm程度4匹、鯨ー31cmから20cm 5匹、エソー35cm程度2匹、カイワリー20cm 1匹

雨は、10時半頃小ぶりになり、午後は、降らず、3時半ごろには日光も出て、サングラスが必等となり、思ったより快適に釣りを楽しんだ。

帰りは、舞鶴若狭自動車道を西舞鶴ICより、丹波綾部道路の京丹波わちIC 経由 国道27号線より京都縦貫道を経て自宅に10時前に帰宅した。今回の釣りは、お祭りが多く、釣果も良くなかったが、状況より判断するに、まあまあの釣りであった、

ビデオ・カメラクラブ

平成24年11月30日（金）OB会レジャー例会「嵐山で紅葉狩り」と併催で、クラブの撮影会を行いました。今回の参加者は、西尾、萩原、山田、川越で、紅葉の盛りは少し過ぎてはいましたが、まだまだ美しく、一般観光客も天下の

嵐山を堪能されていた様子でした。撮影場所は、天龍寺から祇王寺の拝観とその道中の散策路で、クラブ員も貪欲に撮影していました。併催のため時間的な制約もありましたが、力作を見て頂ければ幸いです。



西尾勝治さん 紅葉



川越 幹さん 嵯峨菊



山田昌美さん 紅葉とお堂



萩原孝一さん 白い穂波

堀場OBボランティア活動

鴨川を美しくする会主催 ー 鴨川合同クリーンハイクに参加 ー

平成24年10月14日（日）、朝から快晴に恵まれ、堀場OB会から宮崎さん、森山さんと秋山さんの3名が、鴨川合同クリーンハイクに参加しました。我々はEグループで企業代表315名含む総員1800名が参加しました。出発点の丸太町橋西北詰め（鴨川公園）に10時までに集合し、全員がゴミ拾い“3つ道具”を手に持って、出発前の結団式がありました。

まずは、自治連合会・塩見会長からご挨拶と注意事項がありました。今年は、三条橋まで左右兩岸に別れてスタートすることになり、人数が多いので、無理な行動をせずクリーンハイクを楽しむ様にと、まずは安全第一を優先するようと言われました。

特に注意があった高齢者の守備範囲は、歩道周辺を限定にして、坂や傾斜場所は近づかない、また老人クラブは、到着が早すぎないようにとの注意があった。

ついで来賓の山下京都副知事からは、最近京都府下の河川でもゲリラ豪雨が珍しくなくなり、各所で堤防が氾濫することがありました。幸いこの鴨川は、このように大きい災害被害も

無く皆さんによるクリーンハイクの日を迎えることができました。けがすることなく、今日の鴨川清掃を楽しむようにとの激励の言葉がありました。堀場チームは、左岸を担当、歩道橋から離れた堤防周辺の生垣周辺と水辺の清掃を担当しました。

トピックスとして、水辺に、大型ゴミと思わ



れる鉄製のかごがあり、発見場所をチェックし、事務局あて連絡を入れました。

三条橋のテント事務局に報告の後、全員が写真を撮り、無事に終了することができました。

鴨川を美しくする会主催

— 鴨川定例クリーンハイクに参加 —

平成24年11月4日（日）、穏やかな秋空のもと、「鴨川を美しくする会」主催の鴨川定例クリーンハイクに、堀場OB会からは池田、酒井、石黒の計3名が参加しました。

集合は午前10時に丸太町橋西北詰め、そこから北大路橋まで3km余りをごみを拾いながらのハイキングです。このコースは全員で4～50名程度の参加でした。堀場OB会は右岸を担当し、堀場OBロゴマーク入りジャンパーを着て参加しました。

みんなとおしゃべりも楽しみながらたばこの吸い殻やプラスチックの切れ端等を拾いました。珍しいところでは、汗を拭いたタオルや雨傘など、いらなくなって持ち帰るのが面倒で捨てたのでしょうか？途中、水鳥が泳いでいるのを眺めている人達、ジョギングを楽しむ人達、ベンチで休憩している人達と色々な人と出会いながらの90分でした。



ゴール地点の北大路橋前では、多くのゴミ袋が積まれていて、小生の拾った傘以外にも傘が並んでいました。しかし、ごみは従来に比べ、大きく減っているように感じました。その後、堀場OB会の3名と一緒に昼食を食べながらのお

しゃべりで盛り上がりました。

今回は、穏やかな秋空のもと早朝から心地よい汗をかき、楽しいひと時を過ごすことができました。

— ボランティア活動に参加お願い —

堀場OB会には部会として「堀場OBボランティア部会」があります。

ボランティア部会対外活動として、「鴨川を美しくする会」に団体登録し部会メンバーの積極的な参加により活動も定着、堀場OB会の知名度も高まりつつあります。

今後も環境をテーマをはじめ幅広く活動を広げて行く事を検討しております。

このためには部会登録者だけではパワー不足であり、幅広く活動に協力いただくボランティア部会メンバーを募集しています。

ボランティア活動はスキルに関係なく、協力の精神で参加いただける活動です。是非、ご協力いただきますようお願い致します。

◆ お問合わせ、部会入会希望の方は、担当幹事の石黒英憲さんに連絡ください。

E.Mail ishiguh@yahoo.co.jp

堀場OBキャリア活動

平成24年度

—京モノレンジャー活動報告—

キャリア部会活動としての京都生き方探求館での京モノレンジャーの活動について報告をします。

前号にも書きましたが、9月から同じ「世界に一つの温度計」と銘打ちつつ、それ以前のプレ

ミアムバージョン（完成度が高く児童の工作手間が少ない）から、予算等の問題で、廉価版に再設計した温度計にて、工作授業を行う事にしました。しかしながら、1回目の9月19日は子供達の作業能力と作業時間の予測を誤り

混乱を起してしまいました。そこで2回目の10月12日の40名からは、やり方を変えて、知恵

を出し合い、工夫を重ねて、子供の作業範囲を減らすため、8割方をOB会のメンバーで事前に作成して児童が時間内に完成できるものに大幅変更を施しました。

台紙の上で、ホッチキスにより電子回路を構成する事は、導通的に難しく品質面で問題があり、メンバーは大いに苦労しましたが、改良を加えながら、3回目の10月24日の22名の授業に成功を取め、自信を深めました。その実績を踏まえて、10月30日には先に問題を起こした凌風小学校に出前授業を行い、3クラス（88名）で連続して3回の工作授業を行い、その内容改善の充実により、先生方から御好評を頂き、失地回復に成功した事を実感することが出来ました。

さらにこの廉価版の品質面、作業性の大幅な

改善を期すため、製作方法を改善するべく、費用面での支援を受けて廉価版Ver.4として12月12日の授業に向けて改良中です。

今年度は、12月と2月1日の2回を残すのみとなりました。来年度の4月以降も、新たな挑戦に取り組み、OB会の社会貢献の一環として、児童の教育に寄与する事ができるよう、キャリア部会のメンバーは頑張っています。今後共、皆様の一層の御支援、御協力をお願い致します。

キャリア部会では、活動の拡大に伴い活動に協力いただくメンバーを募集しています。

活動内容の問合せ、および協力申込は、OB会幹事の酒井俊英さん宛にお願いします。

Email:sakai727@yahoo.co.jp

NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会活動状況

KSVUは今年でNPO法人となり設立5周年を迎えます。又発足15周年を迎えます。

KSVUには堀場製作所OBの中のキャリア部会がHOVCとして参画しております。

多種多様な技術・経験を十分に持っている堀場OBの皆さんの自らの生き甲斐つくりの場でもあります。

堀場OBの多種多様な技術・経験をベンチャー・中小企業支援に・・・省エネ支援活動に・・・大学発技術シーズの中小企業移転事業に・・・教育支援活動に向けてください。またKSVU主催の講演勉強会・会社見学会にも参加して下さい。

現在活動をしているKSVU取組事業を紹介します・・・堀場OBもぜひ参加して下さい

■ベンチャー・中小企業支援・省エネ支援活動

堀場OBの多岐多様な技術・経験が次の中に必ずあります。
経営企画・戦略立案、人事労務管理、法務・特

許、経理・財務管理、情報・IT活用、販路開拓・マーケティング、生産管理・物流管理、技術・製品開発、社員教育、海外展開・国際化、省エネ支援、各規格の取得

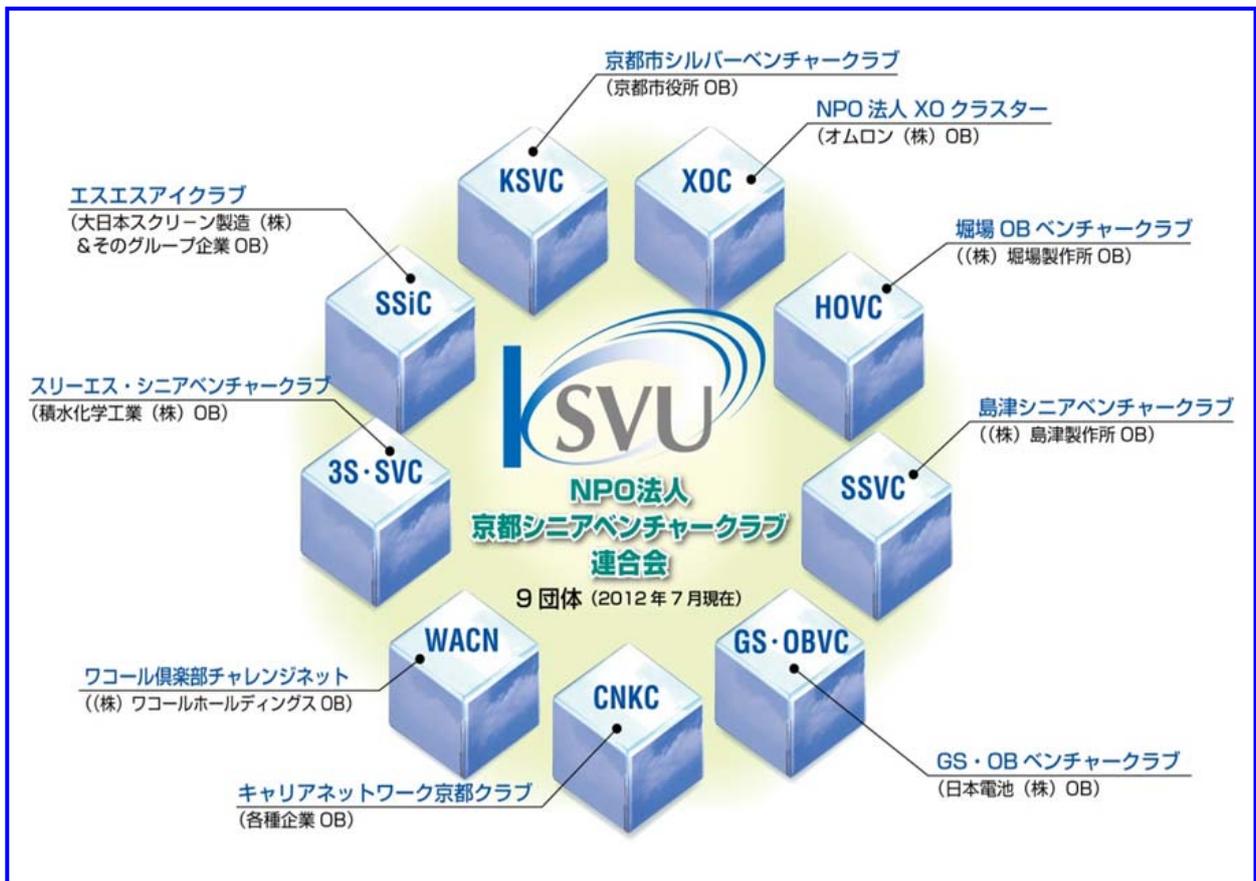
是非とも支援してあげてください。現在、堀場OB数人の方が中小企業支援中、又省エネ支援はKSVU省エネ研究会として25名が参画中

（これらにはKSVU登録が必要です。希望者は、堀場OB幹事 酒井俊英さんにご相談下さい）

■大学発技術シーズの中小企業移転事業

京都の大学発の技術シーズを整理し、対外的に解り易く・取っ付き易くし、これをデータベース化することで中小企業への技術移転が容易に成ってほしい！

現在、京都工芸繊維大学、京都大学のシーズを「大学発技術シーズ集」として作成中。
23年度は50シーズを完成（KSVUホームページ参照） 24年度は70シーズを目標に挑戦中。



現在 KSVU 9名で取組中、堀場OBも一人が参画中

■教育支援活動

京都まなびの街生き方探究館において「京モノづくりの殿堂・工房学習」を支援。

京都市教育委員会が進めている京都人が大切にしてきたモノづくりの精神を次世代へと受け継ぐための支援活動として、教育支援員「京モノレンジャー」として参画、小学生たちにモノづくりの楽しさを教えるための「京モノレンジャー」活動です。

24年度は小学校99校、小学生6300人が受講。

「京モノレンジャー」にはKSVU会員91名が登録支援中、その内、堀場OBから23名が登録しています。(23名中、常時10名が活躍中)

■被災企業支援サポーター事業

仙台市に対し京都市・ASTEM・仙台市産業

振興事業団と共に宮城仙台の被災企業への販路開拓をはじめ各種の支援を行っています。

KSVU事務局が中心となりコーディネートをしています。

■講演勉強会・企業見学

KSVUでは年に2回の講演勉強会、2回の企業見学会を開催しています。

どちらも60名近くの参加者があります。堀場OBの多くの参加を望みます

取組事情等の詳細は、KSVUホームページをご覧ください。 <http://ksvu.co.jp>★

また、事業の詳細をお知りになりたい方は、KSVU事務局の船越 健氏(堀場OB)にお問合せ下さい。 Mail : funakosh@astem.or.jp

OB会行事報告

夏の懇親会

8月18日（土曜日）恒例の堀場製作所OB会夏期懇親会が、がんこ高瀬川二条苑で開催されました。当日の京都は、大雨と落雷の影響で交通機関も大幅に遅れましたが、42名もの大勢の参加を頂きました。はじめに堀場製作所管理本部の山下副本部長から、最近の堀場製作所の状況報告を含めご挨拶頂き、次に堀場製作所OB会代表幹事の川越さんからOB会の近況報告を交え挨拶されました。

懇親会は、船越さんの司会進行のもと、終始話し声が絶えず、昔話にも花が咲き、最初から最後まで和気藹々な雰囲気の中、閉会となりました。最後に酒井さんから、11月2日（金）の「年次総会」への多数の参加をお願いし一本締めでお開きとなりました。

尚、山本副代表幹事から堀場創立60周年記念のコメントをOB会も投稿協力するため説明とともに資料が配布されました。



レジャー例会

秋の教養・レジャー例会が2012年11月30日（金）に開催されました。

まずは腹ごしらえと、西山艸堂（せいざんそうどう）にて湯豆腐定食で昼食をとりました。私は今年OB会に加入し、早速初めてのレジャー例会ということで参加させていただきました。どんな方が来られるのかを楽しながら阪急嵐山

駅を降りると、そこにはかつての諸先輩方がおられ、昔を懐かしみながら待ち合わせました。

今回の京都嵐山観光のコースは、平日にもかかわらず、また紅葉シーズンの終わりとはいえ、数珠つなぎの観光客であふれていました。

今年の紅葉は急に寒くなったおかげで、どの場所でも、色が映えていました。

まず天龍寺（臨濟宗天龍寺派で1339年 後醍醐天皇の菩提を弔うために足利尊氏が創建）に入山しました。夢窓国師による雄大な借景を用いた壮大な庭園は圧巻でした。その後、嵯峨野の竹林をくぐり抜け、途中大河内山荘、常寂光寺、



落柿舎、二尊院を横目で見ながら散策し、奥嵯峨の祇王寺（真言宗の尼寺で大覚寺の塔頭、平清盛が寵愛した祇王、祇女に縁の寺）に入苑しました。尼寺らしくこじんまりとした庭園は、優雅な紅葉に囲まれ、諸行無情を感じさせる雰囲気を感じさせていました。ここまでは、一行揃って散策しましたが、祇王寺で各自それぞれの時間をかけて、楽しんだ結果、その後は自由行動になり、境内が石仏で埋め尽くされた化野念仏寺



まで足を延ばした班もあり、三々五々、嵐電嵐山駅へ戻り帰路につきました。

今回の例会に参加した感想ですが、ハイキングに参加された方はそれぞれ、歩き好きの方、風景写真の好きな方、それぞれ自分の趣味を生き生きと参加されているのだと感じました。

日頃、身近な京都にも拘わらず、あらためて観光となるとなかなか行けていませんが、参加された方は毎回参加され、京都の観光地を知らないところがないほど回っておられると聞きました。しかし私は毎回新しい発見、季節により異なる風景、年により異なる風景と、一つとして同じものがないと思います。また参加させていただきたいと思います。このような機会を与えていただき有難うございました。

東京支部活動報告

— 堀場社長との懇談会を開催 —

2012年9月6日（木）13:00からホテルニューオータニ幕張すいせんの間にて堀場社長、石田副社長、山下理事に出席いただき、OB会より8名出席し懇談会を開催いたしました。

残暑も一休みした中、懇談会は2009年より開催、今年は4回目で4年目となりました。堀場社長よりJASIS 2012展（分析展から合同展に今回よりJASIS展に）が9月5日より開催され、ま

まっあって非常によくなってきた、入場者も昨年と同様でスタートしました。堀場の現況として8月に株価がストップ安となった、業績は悪くないが為替の影響であると説明があった。

阿蘇工場を拡張し試薬生産の拡大、海外へのグローバル展開をしている。OB会員からの質問も多く、シャープの話、キャノンのプリンターの話、中国の話、新聞社の話、政治の話等幅広い内容の懇談会となり、時間をオーバーしてし

まいりました。

その後新製品が多く出展されているJASIS 2012展のHORIBAブース（32小間）等を見学しました。

◆出席者

堀場社長、石田副社長、山下理事
寺西氏、草鹿氏、辻川氏、村木氏
土屋氏、玉置氏、新井氏、谷口氏



会員の寄稿文

京都の知っているつもり「京都の治水・三人の偉人がいた」 海野 興一郎

鴨川の歴史をネットで調べているうちに、京都の治水・利水に貢献した偉人が三人いたことに気付いたので、その歴史を探ってみた。

一人目は豊臣秀吉である。当時、鴨川は頻繁に洪水を発生していた。そこで、1591年秀吉は京都の中心部を「御土居」と言う堤防（基底部：9m高さ：3m）で囲み、外側に堀（幅：4～18m）を巡らした。総延長23km、南北に長い歪な楕円状の輪中の一環で、鴨川や桂川からの氾濫水を防いだのである。さらに1593年伏見城築城の際、宇治川に堤防を建設し、宇治橋下流からそれまでの巨椋池経由淀への川筋を今の観月橋経由淀に迂回させ、伏見港（大阪との拠点）を開港した。さらに観月橋の位置に豊後橋を架け、巨椋池に堤防を建設、その上に奈良への道：大和街道を設けた。これらを太閤堤と呼ばれ、現在近鉄京都線がその一部を路盤として利用している。

二人目は角倉了以である。了以は、1610年徳川家康から方広寺大仏再建用資材の運搬を命じられ、宇治川上流で調達した木材を筏に組み、鴨川を遡って三条付近まで運んだが、鴨川が予

想以上に急流であることを知り、1611～1614年二条通付近の鴨川の河川敷から宇治川まで運河を開削したのである。それが高瀬川である。各所に荷物の上げ下ろしと方向転換のため舟入を設け、川沿いには、遡る舟に綱を結び、曳き歩



高瀬川と高瀬舟

くための曳舟道を設けた。了以死後、その子：素庵が受け継ぎ、高瀬川は京都/伏見間の米、酒、炭、薪、材木などの物流運河となり、伏見の酒造り発展に大きく寄与したのである。また川沿いに材木商が増え、木屋町と呼ばれる様になったのである。

最後は田邊朔郎である。日本にまだ車もなく、鉄道が品川/横浜間しか開通していない明治初期、京都府知事の北垣国道は、東京遷都による人口減少を見兼ね、京都の繁栄には琵琶湖湖水による灌漑と水運の開発が不可欠と考えていた。そこに京都における琵琶湖湖水利用を卒業研究にしていた東京工部大学校(現：東京大学工学部)の田邊朔郎を知り、その卒業論文を採用。



インクライン蹴上の舟溜り

さらに本人を卒業後京都府に採用し、1885(明治18)年琵琶湖疎水開発事業を当時23歳の田邊に託すのである。その事業とは、水路を琵琶湖大津市三保ヶ崎から蹴上、鴨川東沿い、伏見城の外堀(濠川)を経て宇治川へ開き、灌漑や滋賀/京都/伏見間の水運に利用。次に分流水路を蹴上から南禅寺水路閣、哲学の道沿い、さらに高野川、賀茂川を木製のU字管で横断、下鴨を經由し堀川まで敷き、灌漑に利用した。宇治川への水路には、蹴上と墨染に水力発電所とインクラインを建設。舟溜りで荷積みそのまま舟を台車に載せ、この電力で、インクラインの滑車を動か

し、高低差ある舟溜り間で台車を移動、舟の運行を容易にし、さらに、路面電車(市電)をも運行させたのである。

日本人は、元々河川の氾濫・堆積の繰返しでできた平野、扇状地に定住した農耕民族である。農業では「いかにして洪水を防ぎ、常に灌漑用水を容易に得られるか」、さらに水運では「いかにして運河を敷き、常に一定水量を確保できるか」が必要条件である。京都は昔、都であっても頻繁に洪水と早ばつに見舞われ、水害対策と灌漑用水の確保、さらに当時の物流手段である水運の開発が必須であった。そこに治水・利



平野鳥居前町の御土居

水に貢献した偉人が三人いたのである。今こそダムや堤防が完備され、田畑には水路が敷設され、さらに高速道路、トラック物流の発達で、便利な世の中になったが、ここ50年のこと。100年前までは、今では考えられない不便な時代であった。このことを認識し、先人の偉業に驚きと感謝の念を忘れてはいけないと思う今日この頃である。

年をとってもいきいき元気に暮らしたい 梶並 強平

“村の渡しの 船頭さんは ことし六十のおじいさん 年はとつてもお船を漕ぐときは……”は、昭和10年頃出来た童謡で、小さい頃よく歌っていた。これを作詞した竹内俊子(1905年～)は享年39才、作曲した河村光陽(1897年～)は享年49才であった。“人生わず

か50年”と言っていた時代であり、当時60才の船頭さんと言えば、かなりのお年まで働いてた事になる。

一方、私は80才になるが、今でも毎日フルタイムで、ギッチラコ、ギッチラコお船を漕いでいるが、お爺さんになっている自覚は全くな

い。ある人の話しによると、医療の発達や食生活の改善等で、現在の自分の歳に0.7掛けが当時の人の年齢になると、言っていた人がいたが、その計算では、私は56才と言う事になり、まだまだ60歳まで、数年間お船を漕ぐことが出来るのではないのではないかと思っている。

私は、土日を利用して、社会福祉協議会関係のほうにも顔を出しているが、この協議会の分科会では私よりも高齢の方が、社会福祉のボランティア活動を積極的に参加しており、優秀で・元気がよくて・熱心で・生き生きしてるのは女性ばかりであるが、それでも私はこの中の“にこにこ会”と言う会に所属して、ボランティア活動を行っている。

“にこにこ会”では、私は、お年寄りで病弱な方の家の植木の剪定、庭の草取りや、その他一人暮らしの方へのお話し相手（94才で、私の方がボランティアをして頂きたいくらいお元気な方もおられる。

私は、子供の頃からお茶のお点前をしていたので、お茶道具（茶箱）を持参してお饅頭を食べ、お点前でお茶を飲みながら昔話しをして過ごす等を定期的に行っている。

これとは別に、老人ホームでは、身寄りが無い人に（孤独のうちに亡くなっていく様な）週一回ほど会いに行くのですが、お伺いすると大変嬉しそうなお様子で、こちらも又嬉しくなってくる。

静かにその人の若かりし頃の思い出話を聴いてあげたり、また寂しさや、体の不自由さから来る、心の内や、もどかしさ等の愚痴も聞きながら、色々な思いに耳を傾け、慰め、励まして心が穏やかになれる様にしてあげている。中には、痴呆の症状が出てきて、体のコンディションによっては、感情の起伏が激しくなり、ご自分の感情もコントロールし切れなくなって、ずいぶんと、ひどい事を言われることがある。それでもじっと耐えながら、このような境遇の方へのボランティア活動はとても価値があり、やりがいのある事だと思い、心からこの仕事に生きがいを感じさせられている。また、区の老人センターでは、やはり女性社会で、習い事やスポーツ等は、女性の方がほとんどで、若返りのために積極的に参加をされている。

私も毎週、卓球に精をだしているが、私より高齢の女性が、すごく元気で活発に卓球をされているのを見るにつけ、大変ほほえましく感じる。

私は、ウイークデーはお船を漕ぎ、土日はボランティアと趣味と遊びで過ごしているが、元気な内は、これからも継続して頑張ろうと思っている。

いつまでも楽しい人生を送るため、自分の意思と、価値観によって、好き勝手に残りの人生を自分らしい生き方で、いきいき元気に走り切る事にしている。

OB会だより

— 堀場OB会ホームページ紹介 —

堀場OB会のホームページはクラブ活動をはじめ各種の行事案内、活動報告を掲載しています。訪問件数は2万件を超え多くの会員に見ていただいていると思います。

より魅力あるホームページにするために会員からのご意見、ご提案をお寄せ下さい。

◆ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

◆堀場OB会メールアドレス

horiba.ob@gmail.com

会員にお届けしている会報は、モノクロ版ですが、ホームページにはカラー版の会報を掲載していますのでご覧下さい。

ホームページの会報閲覧は個人情報保護のため会員以外の方が閲覧出来ないようにパスワード

ドで保護しています。閲覧は、トップページの「会報」ボタンをクリックするとパスワード入力画面が表示されますので、下記のパスワード

ドを入力していただくと会報のリスト画面に変わります。

◆会報閲覧パスワード horibaob

— 新入会員紹介 —

平成23年10月以降に入会された会員を紹介します。（敬称略）

会員番号 1607—清水 安孝、1608—宇野 久二男、1609—三橋 泰夫、1610—小川 柁幸

— 会員の訃報 —

下記の会員が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

平成24年5月8日 大沢祥三さん

— 年間行事計画について —

第17期の年間OB会行事についてはホームページに「年間行事予定表」を公開していますが、会員の皆様に参加いただく行事を紹介します。

- 鴨川クリーンハイク（年間5～6回の予定）
- 鴨川茶店（4月6日、7日の予定）
- 鴨川納涼（8月3日、4日の予定）
- 工房学習支援（年間：7～8回の予定）
- 一泊（日帰り）旅行（2月～3月の予定）
- 春の懇親会（2月2日）

- レジャー例会（4月、6月、11月の予定）

開催日が決定した行事についてはホームページまたはメールにて紹介させていただきますので参加いただくようお願い致します。

行事内容の詳細は、事務局にお問合せ下さい。

◆事務局 山本広太郎

E.Mail : h.yamamach@gmail.com

TEL/FAX : 077-563-2944

— OB会設立15周年記念誌発行 —

本記念誌は、既に平成24年8月に皆様にお届けしましたが、平成8年10月17日堀場製作所創業記念日にホリバ・ファン・クラブの愛称を掲げてスタートした堀場製作所OB会が昨年の第16期年次総会の際、丁度設立15周年を迎えました。この節目を祝って、会社の支援を得てOB会設立15周年の記念式典を盛大に挙行しましたことは、皆様先刻ご承知のとおりですが、式典事業の一環として、OB会15年間の足跡を留めておきたいとの提案が出て、早速記念誌作成プロジェクトが立ち上がりました。

この記念誌は、次代を背負って頂く方々に、OB会の設立主旨をしっかりと伝承してゆくための礎となるものを志向しました。しかし手がかりとしてそう沢山の資料がありませんので、OB会員の中でも年配層の記憶を絞り出して頂いた

り、古い会報や議事録等から何とか情報を集めました。限られた予算の中で、最終印刷以外、構成、編集等は、全てプロジェクトによる手作り作業のため、予想外の時間がかかり、上述の様な発行日となった第でした。

今、OBは次の時代に向かって活動を進めていますが、次の節目には素晴らしい進展があります様に希望しています。



— 会報・ホームページへの寄稿要領について —

会報への寄稿文、ホームページへのクラブ動、ボランティア活動等の諸活動報告をされる場合に長文では取扱いに苦慮する場合があります。

このため、文字数の上限を下記の通り取決めさせていただきますので協力いただくよう宜しくお願い致します。

◆会報へ寄稿文

1500文字以内（写真を1枚～2枚添付して下さい）

◆ホームページへの活動報告

800文字以内（写真を1枚～2枚添付して下さい）

会報、ホームページ共に文字だけでは読者に伝える力が弱く、写真によって情景を読者に印象付けるものであり、必ず写真を添付いただくようお願い致します。

活動報告は行事終了後、直ちに報告いただくようお願いします。

◆寄稿文の募集

会報に掲載する寄稿文を募集しています。テーマは特に決めていません。

＜旅行の感想＞、＜地域での活動＞、＜地域の社寺仏閣の紹介＞、＜地域の祭り＞など身近なテーマを気軽に寄稿いただきますようお願い致します。

投稿者にはささやかながら「図書カード」を進呈させていただきます。

会報は毎年1月と7月に発行しますので11月、5月を目途に提出いただくようお願いします。

◆著作権について

・書籍から引用の時は出典を明記して下さい。

（発行元、書籍名、著者）

・新聞からの文面、写真の引用は新聞社の承認を必ず得て下さい。

◆送付先

事務局 〒525-0057

草津市桜ヶ丘1-8-6 山本広太郎

h.yamamach@gmail.com

— OB会入会手続きについて —

OB会未加入の方が入会を希望される時は、入会申込書をOB会に提出していただき、入会承認の後、入会費、年会費を納入していただき、正式なOB会員として登録される手順となります。

従来、入会手続きは、入会希望者の声を聞いたOB会員が、代表幹事にその旨を伝え、入会申込書等を入会希望者に手渡し（郵送）していましたが、この度、OB会ホームページより「入会申込書」をダウンロード出来るようになりました。

■手続きの手順

- ①「入会登録書」「入会のお誘い」をダウンロードする。
- ②「入会登録書」に必要事項を記入し、メール添付または郵送にてOB会事務局に提出す

る。

③事務局審査の後、入会金、年会費納入の振込用紙、OB会資料を入会希望者宛に送付する。

④入会希望者は振込用紙にて郵便局より振込。（手続き完了）

OB会員の皆様へ

皆様の周辺で、未加入の退職者がおられましたら入会の勧誘をぜひお願いします。

堀場OBホームページトップページの「OB会入会手続き」のアイコンから入会申込書をダウンロードし、「入会のお誘い」に記載されている手順で手続きを行うよう積極的に案内をお願い致します。

ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

— 堀場最高顧問 創業記念講話 —

(コラムタイトルより転記)

“生涯の大事”が2つ重なっていた私の“メモリアルデー”

本物志向のDNAが時代ごとに“必要とされる製品”を生み出す。

挫折の後の幸運を捉え、“時代が必要とする技術”を積み重ねて

“地味”だけれど“尊い”基礎研究をこれからも大切に

— 2012年1～9月期(四半期)決算及び

2012年連結業績予想 —

医用、半導体、科学セグメントで減収減益、自動車計測セグメントには回復の兆しはあるが、グループ目標の営業利益率10%獲得は、相当厳しい状況。2013年はさらに厳しい環境が予想される中で、強力なスタートダッシュが必要とされる。

・売上高

四半期 828億円 2012年通期 1170億円

・営業利益

四半期 70億円 2012年通期 110億円

・純利益

四半期 40億円 2012年通期 66億円

— コンパクト水質計 LAQUAtwin 誕生 —

現行のTwin, CARDYが一つの形になって、コンパクト水質計 LAQUAが誕生しました。イオン計では唯一センサー一体型となり、9月1日より販売開始されました。

— 命の絆 —

被災地の中学校野球部へピッチングマシンを寄付

HORIBAグループ感謝デーのバザー資金と会社の拠出金を加えた46万円を、東日本大震災の義捐金として寄付しました。これが陸前高田市の広田中学校野球部に機関を通じて寄贈されました。同校の野球部主将から、今後の希望と感謝のメッセージが送られてきました。

— OB会員秋山重之さん(開発プロセス改革部勤務)が受賞 —

11月16日、平成24年度近畿地方発明表彰で京都発明協会会長賞を受けられました。対象は「吸光式分析計」の発明に係るもので、生田卓司さん、遠藤正彦さん、岩田憲和さん、井ノ上哲志さんとのグループで受賞。

(Joy&Fanより抜粋)

編集後記

第17期の年次総会で、今年が、堀場最高顧問の「米寿」の年にあたり、OB会からささやかなお祝いをさせて頂いた貴重な年度となりました。そのため最高顧問の講話についても出来るだけ、ニュアンスをきめ細かくお伝えすべく、抄録ながらも少し長くなりました。

今期はさらに新幹事を迎えて、新規役割分担による活動がスタートし、特にモノづくり探究館での小学生への工作ボランティアの苦労話もあり、多彩な行事報告となりました。

クラブ活動報告についても、それぞれ楽しまれている様子で、軌道に乗ってはいますが、さらに幅広い展開で皆様さまの参加が望まれている

ます。

皆様からの「寄稿文」は、もっと多彩なものにしたいと思っていますので、遠慮なくご投稿下さい。また、編集部の方からもお願いいたしますので、どうかよろしく願いいたします。ホームページは速報性を、会報はじっくりとした読み物にと、その役割を棲み分けしています。ご理解のうえよろしく願います。

尚、今期は、発行が遅れていた「堀場製作所OB会設立15周年記念誌」の編集、発行作業のため、大変手間がかかり、本会報が遅れがちになったことをご了承ください。(編集部)

* 堀場製作所OB会 *
* 〒601-8510 *
* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 *
* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 *
* URL <http://wwwh5.dion.ne.jp/~ob-hor> *
